

「地域を担う農業者に」

越智 勝海 (26歳)
(今治市)

Uターン



1 就農の動機・理由

実家が農家ということで、小学生の頃から農業に関心があり、高校生のときに就農について真剣に考えるようになった。

農業大学校を卒業後、自身の経験値を高めるために農業資材メーカー等で働き、農業の楽しさを再確認した後に就農した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和2年)	現在の経営 (令和3年)	将来の経営 (令和6年)
労働力	男1人(本人)	男1人(本人)	男1人(本人)
経営耕地	水田 40 a 畑 27 a	水田 40 a 畑 27 a	水田 40 a 畑 57 a
経営内容	水田 40 a きゅうり 15 a 甘長とうがらし5 a 春菊 7 a	水田 40 a きゅうり 15 a 甘長とうがらし5 a 春菊 7 a	水田 40 a きゅうり 15 a 甘長とうがらし5 a 春菊 7 a さといも 30 a

○農業用施設

- 野菜用パイプハウス 7 a
(令和3年度完成予定)
- 野菜用パイプハウス 3 a
(JAより借入れ)

○主要農業機械

- トラクター 25ps 1台
- 管理機 1台
- ※稲作用機械は父親と共同利用

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

- 出身地 愛媛県今治市
- 職歴 (株)コメリ(岡山県勤務)
- 就農研修歴

愛媛県立農業大学校
(H25.4.1~H27.3.31)

(株)ファーム咲創
(H28.4.1~H31.3.31)

就農年月 令和2年9月

(H31.4.1~R2.8.31は親元で研修)

(2) 就農時の思い

実家が米農家ということもあり、野菜施設が全く無かったため、施設整備がスムーズにできるか不安だった。技術面の不安もあったが、自身の好きな品目に取組むことで前向きになれた。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

農業大学校で野菜栽培の基礎的な知識を身に付け、(株)ファーム咲創で「きゅうり」及び「さといも」の栽培方法について研修し、実践的な知識や技術を習得した。

(2) 資金の準備

農業次世代人材投資事業(経営開始型)を受給中であるとともに、野菜用パイプハウスの建設にあたり、農協から資金を借り入れる予定である。

(3) 農地・住宅の確保

農地は、父親が所有する土地や地域の耕作されなくなった土地の一部を借受けた。住宅も両親と同居している。

(4) その他苦労したこと

農地の利用権を設定するにあたり、想定していたよりも手続きに時間が掛かったこと。

5 農業経営の特徴

研修先でも「きゅうり」を主に栽培していたことから、経営の柱を「きゅうり」としている。加えて、地域の特産である「甘長とうがらし」及び「春菊」を栽培し、地域の先輩農業者からのアドバイスを受けやすい環境となっている。また、次年度より水田を利用して「さといも」を栽培し、更なる所得向上に取り組む。

6 これからの夢

地域に若手農業者が少ないことから、作り手がいなくなった農地について、積極的に集積できる農業者になりたい。そして、人を雇えるだけの知識や技術を身に付け、地域農業の維持・発展に尽力していきたい。

7 成功したキーポイント

栽培管理を徹底したこと。妥協せずに取り組むと、自然と結果がついてきたことが自信になった。

また、就農間も無いことから失敗も多く、収量が低いこともあったが、地域の先輩農業者が自身の圃場に定期的に訪

れ、管理作業のタイミング等について教えてくれたりしたこと。

8 就農を目指す方へのアドバイス

私は人見知りな性格だが、先輩農家と顔を合わせた際に、できるだけ多くの知識や技術を吸収するため、人と会話することを心掛けました。

皆さんも、就農した際は地域の方々との交流を図り、自身が農業に取り組みやすい環境作りを実践してほしいです。

○ 指導機関からのひとこと

青年農業者を対象とした講座にも積極的に参加し、貪欲に自身のスキル向上に努めています。今後、地域の担い手となることが期待されています。

執筆機関

東予地方局産業経済部今治支局地域農業育成室
電話番号 0898-23-2570



春菊の収穫作業